



今北ひだまり通信

No. 6 令和7年10月7日

教育相談課 柚山 宏光

白杖をついた女性

今治駅バス停のベンチで、新居浜行きのバスを待つ。4番乗り場、午後2時晴天。今年の夏はとびきり暑い。陽炎が揺らめく。夏休みの補習から帰る高校生が集まっている。福山行の高速バス乗り場には外国人交じりの観光客がごったがえす。夏休みだ。

Kindleで本を読むのが入院中からの趣味になっている。紙本の方が好きだが、病気の腕にはいささか重い。ぼーと読んでいると、点字ブロックを歩いてくる人の気配がした。

視覚に障害がある方だ。女性の方。50代ぐらいの方だろうか。白い帽子をかぶり、品のいいワンピース。白杖の先がかなり斜めにすり減っている。停止の点字ブロックで見事に止まり、背筋を伸ばしバスを待つ。車の音を聞き分けている。凜とした立ち姿。思わずワイエスの「クリスティーナの世界」が重なった。

アンドリュー・ワイエスはアメリカの画家。「クリスティーナの世界」は、下半身が麻痺している彼女が、草原を這いながら家に向かう様子をテーマ（世界）に絵を描いている。この作品のすばらしさは、ワイエスの卓越した写実性もさることながら、彼女の肩から指先にかけての力強い描写だ。

遠く離れた家にとどり着こうと、彼女に残された能力を使って前に進もうとする思いが強く表れていると思う。「肉体的には制限されているが、精神的には決して制限されていない」ワイエスの言葉だ。彼の作品の奥には人間を見つめる目がある。

新居浜行きのバスが来る。彼女の耳は反応する。バスの待合所と道路には15cmぐらいの段差があるがものともしない。扉が開くと、彼女は白杖でバス入り口までの距離を測り当たり前のように乗り込んだ。整理券も見事に右手でつかむ。人の気配のない椅子につま先をうまく使い座る。後ろから私が乗り込む。静まり返った世界。バスが発進する。カーブを曲がるたびバスは大きく揺れるが、彼女の姿勢は崩れない。

鳥生に近づくと彼女はボタンを押し、下車の準備をする。軽く揺れてバスが止まる。すっと立ち上がり、白杖でスペースを確認しながら料金を払い、下車する。よどみない動作。

バスが発車する。誰かが彼女を迎えに来ている。若い女性。お子さんかな。車窓から見える彼女の背筋は軽く丸くなり、顔は微笑んでいた。

美しいなと思った。

令和6年8月22日FBより

スクールライフアドバイザー 武内 靖先生

10月の来校予定

10月14日(火)・21日(火)・28日(火)

※どのような場合でも、話の内容の秘密は厳守されますので、安心して相談してください。

